



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	東京学芸大学地理学会60周年を記念して（東京学芸大学地理学会60周年にあたって）(fulltext)
Author(s)	加賀美,雅弘
Citation	学芸地理(68): 3-3
Issue Date	2013-07-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/134214
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

東京学芸大学地理学会 60周年を記念して

地理学分野主任 加賀美 雅弘*

東京学芸大学地理学会が60周年を迎えました。2002年の50周年記念行事で半世紀にわたる本学会の発展ぶりを総括したばかりですが、それから10年を経て本学会が果たす役割はますます大きくなろうとしています。たとえば50周年で出版された『東京学芸大学地理学会シリーズ(全4巻)』(古今書院)はたいへん好評で、多くの読者を得ることができました。いずれも増刷・増補・改定の版を出すに至っています。本学会の総力をあげた成果が着実に全国の地理学関係者の目にとまり、小・中・高の教育現場に生かされている証左と言えるでしょう。またこれに続いて、本学教員の間で大学の地理教育のための教科書をつくる企画が立ち上がり、『地理学基礎シリーズ』(朝倉書店)として地理学・自然地理・地誌学の概説書3巻を刊行しました。これも多くの大学でテキストとして利用されています。

そうして迎えた2012年11月4日、東京学芸大学地理学会60周年講演会・実践報告会が行われました。卒業第1期の大先輩から現役の学生諸君まで大勢の皆さんにご参加いただき、地理教育にかかわる現場からの興味深い報告を踏まえて、たいへん活発な質疑応答が交わされました。これまでに学んできた地理学を教育の現場に生かすことへの試行錯誤とその成果をめぐって真剣な意見の交換がなされ、世代を越えた結びつきを確認しあうという、歴史ある本学会ならではの盛会ぶりでした。

いうまでもなく、地理を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、現代において地理の重要性が高まる一方であることも事実です。2012年12月の記者会見で、安倍晋三氏が「日中関係については(中略)世界地図を開きながらその中で戦略を考える」(自民党Webより)と述べました。まさに現代世界において地理的な視点が不可欠なのは自明なのです。書籍の検索エンジンWebcat-plusで「地理」と「地図」のキーワードで検索をかけると、実に20万を超える膨大な本がヒットしてきます。あるいは、街を歩いて観察するNHK番組「プラタモリ」が人気なのは、そこに地域や景観を観察することのおもしろさを実感できるからでしょう。これらを見ても地理に向けられた関心は低いどころか、むしろ高まっていると言えるのではないのでしょうか。こうした動向に対応し、地理的センスを磨く場としての本学会への期待は募るばかりです。

東京学芸大学は目下、教員養成に特化する方向に舵を取っており、そのための組織再編が進められています。そうしたなかで地理学分野は教員の定員削減など厳しい環境にあり、新たな対応が求められています。教員と学生、卒業生が相互に連携をとり、地理のおもしろさを共有することによって、東京学芸大学地理学会がこれから先の地理学の発展を担い、新たな情報の発信源としての役割を果たし続けていくことを願ってやみません。

* 東京学芸大学・教授